



バスラ日誌（2月5日）

1 師団司令部の主力は英国人である。正式名称は、グレートブリテン・北アイルランド連合王国で、イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドの独立した4カ国からなると考えたほうがよいようだ。イングランドに対する他の3カ国の対抗意識は想像を絶するものがあるそうで、言葉も同じ英語といいながら、スコットランドやウェールズ地方の地元住民の言葉はさっぱりわからないらしい。（正統派英語の聞き取りも難しいので、理解できない原因が方言のせい、自分の英語能力のせいとは判別できない。）確かに、わかりやすく話してくれる人と、非常に聞き取り困難な人がいることも事実である。一般に英国人は、紳士の風、伝統を重んじ古いものを愛する、フェア・プレイの精神、マナーを大事にするなど好意的なイメージを抱く人が多いと思う。実際に接してみると、少々冷たい印象は受けるが、冷静沈着で、誠実な人が多いと思う。持ってきた本に、英国人と接するには、とにかく挨拶することだと書いてあった。黙っていると英国人は知らん顔をする。見知らぬ者に声をかけてまで親しくなろうとする人は全くないと書いてある。こちらに来て、とにかくすれ違う人には全員に挨拶をしている。最初は無視されることが多かったが、最近はかなりの人から挨拶を返してもらったり、先に声をかけてもらったりするようになってきた。バスラ4名ここでもウグイス雄作戦展開中。

2 休憩中、タバコを吸いながらルーマニアの中佐の方と話しているとルーマニアはほとんどの人がカトリックであり、妻からお守りとして聖人の絵の書いたカードをもらっていると誇らしげに話した。私も負けず、誇らしげに妻からもらったお守りを見せると、珍しそうに見るやお守りに書いてある字について興味を持ち「何と書いてあるんだ？」と聞いてきた。私は「それは神社の名前だ」と答え、彼は驚き、「自分のカードには教会の名前が書いていない」と落胆した。国は違うが、お守りを持っているんだと感心したと同時に、何だか自分のお守りがすぐれているように感じた、休憩中のひとときでした。

3 本日快晴。バスラ4名、極めて健康。